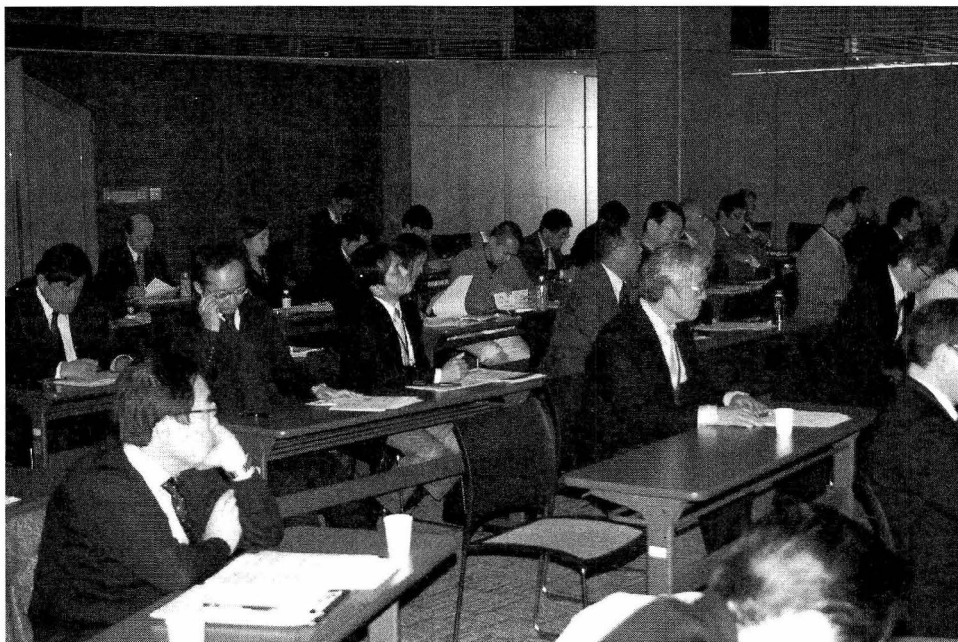


## 平成26年度海外企業調査報告：タイ・バンコク調査報告

雑誌名	経営力創成研究
号	11
ページ	121-125
発行年	2015-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00007597/">http://id.nii.ac.jp/1060/00007597/</a>



### 3. 平成 26 年度海外企業調査報告

#### <タイ・バンコク調査報告>

##### 【調査メンバー】

井上善海 センター長

小椋康宏 副センター長

幸田浩文 プロジェクト・サブ・リーダー（アジアにおけるスモールビジネスの創造と国際的企業家育成研究グループ）

柿崎洋一 プロジェクト・サブ・リーダー（国際的企業家精神とベンチャービジネス・マネジメント研究グループ）

劉 永鵬 センター研究員

董 晶輝 センター研究員

西澤昭夫 センター研究員



### 【調査内容】

今回の調査では、電力、水道、交通網等のインフラの整備が進み、東南アジアで産業集積がもっとも進むタイを調査のサンプル国とした。全体日程は、2014年10月30日（木）～11月3日（月）で実施した。

10月30日（木）午後、泰日工業大学を訪問し会談を行った。先方の出席者は、学長 Krisada Visavateeranon 博士、副学長 Bandhit Rojarayanont 博士、副学長 Pornanong Niyomka Hirikawa 女史、Rungsun Lertnaisat 経営学部長、Supaporn Hempongsopa 国際部長、国際交流担当の児崎大介氏、及び学長室の水谷光一氏であった。

まずは先方より大学の紹介があり、続けて、当方より研究センターの概要と今回の研究プロジェクト、東洋大学大学院の紹介を行った。その後、今後の研究協力交流と教育交流について議論を交わした。

泰日工業大学は、「学問を発展させ、産業の振興に寄与し、経済・社会に貢献する」を建学理念として2007年6月開学している。タイ語名称は、サターバン・テクノロジー・タイージープン สถาบันเทคโนโลยีไทย-ญี่ปุ่น (略称: ส.ท.ญ.)、英語名称は Thai-Nichi Institute of Technology (略称: TNI) である。

京都大学工学部出身の Krisada Visavateeranon 学長他、日・英・米大学出身の優秀な経営・教授陣の下、魅力あるカリキュラムが用意されている。グローバル時代を迎えたタイ産業、とりわけ日系企業のニーズに対応して日本的ものづくり

思想のもと、専門能力、語学(英語・日本語)を教授している。コミュニケーション力、管理基礎力、ビジネス実務の基となる社会人基礎力に焦点を当てて学生を育成し、産業界から高い評価を得ている。

産業界、またタイ国内外の各種日本機関との強い協力関係を活かして、現場のインターンシップ教育を重視し、タイ産業界で需要の高い分野(特に自動車、電機・電子、ICT、生産技術)で、日本のものづくりに直結する、実務かつ実践的な技術と知識を兼ね備えた学生を育成している。

10月31日(金)午前、AutoAlliance Thailand 社を視察し、インタビューを行った。先方の出席者は副社長兼最高財務責任者安本篤之氏、生産部上級顧問藤井隆昌氏、ボディ生産ライン顧問尾崎宏明氏であった。AutoAlliance Thailand の社史および現状の紹介を受けた後、生産ラインを視察した。

その後、タイ進出自動車メーカーの経営戦略、環境戦略、財務管理、人事管理、ASAEN の自動車市場の将来、タイにおける自動車産業とその協力関係にあるスモールビジネスの経営戦略についてインタビューを行った。

AutoAlliance Thailand 社は、1998年にフォードとマツダの合弁生産工場として、ピックアップトラックの現地生産を開始し、その後、「デミオ」「アクセラ」と生産車種を拡大している。タイでは、2015年度上半期から新トランスミッション工場が稼働する予定となっている。

10月31日(金)午後、タイの政府機関 BEDO (Thailand's Biodiversity Economy Development Office (BEDO)) が開設・運営する、タイの強みである農業や特産品を活かしたコミュニティビジネスの活性化を狙う企業家教育である Bio-Economy Academy を訪問し、インタビューと意見交換を行った。先方の参加者は BEDO の Senior Director で実施責任者の Preeda Youngsuksathaporn 氏、特許専門家 Kelwalin Dhanasamsombut 女史であった。

タイのバイオ・ビジネスおよび企業家訓練コースの紹介の後、今後の研究とベンチャー教育について議論を交わした。農業や特産品に付加価値を付けたコミュニティビジネス活性化に向けた企業家教育が実際に開始され、タイにおいても IP や創業ファイナンスに関する実務的な企業家教育が実施され始めていることがわかった。

11月1日(土)は、バンコクの大学や市内の商業施設を視察した。Chulalongkorn University は 1917年に設立されたタイ王国において最も古い歴史をもつ、権威ある国立大学である。現在 18 の学部と多数の研究施設があり、キャンパスはバンコク市街に位置している。Chulalongkorn University 内に所在する Sasin Graduate Institute of Business Administration は、ケロッグ経営大学院とウォートン経営大学院のパートナーシップによって 1982年に設立され、大学本部から大幅な自主運営権を与えられた完全独立採算制の大学院大学の成功モデルである。この先進的な取り組みは、これからの高等教育機関の進むべき一つの方向性

として、国内外から高い評価を得ている。

以上、今回の調査では次のような成果を得ることができた。泰日工業大学では、当センターの研究プロジェクトが海外研究者に理解され、今後の研究連携についての基礎が築かれた。AutoAlliance Thailand では、タイ進出日本の自動車メーカーの実態、特にスモールビジネスを中心としたサプライヤーとの関係を知ることができた。Bio-Economy Academy では、タイにおける企業家教育の体制や経験を参考するための情報を得ることができた。

(文責：井上善海)



#### 4. 平成 26 年度国内企業調査報告

調査地：福岡県宮若市トヨタ自動車九州株式会社

：大分県中津市ダイハツ九州株式会社

調査期間：2015 年 1 月 20 日～22 日

調査メンバー：

小椋康宏 副センター長

董晶輝 事務局長

藤井辰朗 研究支援者

# [調査報告]

本研究センターでは、2015 年 1 月 20 日から 22 日の日程で、福岡県宮若市にあるトヨタ自動車九州株式会社の視察、大分県中津市にあるダイハツ九州株式会社の第 1 工場の視察、九州産業大学での研究交流のため出張を行なった。

1 月 20 日は羽田から福岡空港に移動し、そのまま福岡県宮若市のトヨタの工場の視察に向かった。同工場はトヨタの高級ブランドであるレクサスを中心に製造しており、製品に高い付加価値を創造する工場の 1 つである。

生産ラインは混合ラインとなっており、レクサスの様々な車種が同一のラインのベルトコンベアで流れる仕様になっていた。

説明によれば、シャーシやボデー等の部品は、すべて注文された順番にベルトコンベアに乗せられ、作業員は各車体に貼り付けられた仕様書の通りに部品を取り付ける仕組みになっていた。

さらに、この仕様書と取り付ける部品を仕分けされたボックスに整列させることにより、仕様書で指定された部品の取り付けを容易に行なえるようなシステムになっていた。

また、非常時にはラインを停止させる紐を常備しており、万が一のトラブルにも対応できるシステムとなっていた。

1 月 21 日は、大分県中津市のダイハツ九州の工場の視察に向かった。同工場はいま CM で話題のウェイクやミライースなどを製造していた。この工場は元々群馬県の前橋市で製造を行っていた工場を 2004 年 11 月に閉鎖し、同年 12 月に新たに稼働させた工場である。説明によると、敷地面積は約 130 万平方メートル、月平均で 3.8 万台生産される大規模工場、約 3600 人の従業員が働いているとのことであった。またこの工場は環境に対しても最新の設備が導入されているとの事で、排水リサイクル率は 40%に達しているとのことであった。

1 月 22 日は九州産業大学で研究者との研究交流を行なった。

(文責：藤井辰朗)